

# 「アイソン彗星を見つけよう」キャンペーンに参加しよう

## ー天文現象の参加型ウェブキャンペーンの連携実施とその評価ー

縣 秀彦（国立天文台）、各キャンペーン実行委員会一同

### Join the "try to find the comet ISON" campaign

Hidehiko Agata (National Astronomical Observatory of Japan)

#### Abstract

In this report, we report on "campaign to try to find the North Star", "campaign to try to find the comet Panstarrs", and "campaign to try to find the comet ISON". And we tried to evaluate the participatory web campaigns of astronomical phenomenon.

#### 1. はじめに

国立天文台天文情報センターでは、2004 年よりウェブを用いて、天文現象等の市民参加型のキャンペーンを実施してきた。キャンペーンでは流星群、皆既月食、明るい彗星など一般市民にとって比較的容易に観察可能な天文現象の際に、ウェブ上の観察方法等の情報を参考に天体観察を実施してもらい、その結果をネット上に報告してもらう。各回のキャンペーンの成果は、天候等によって左右されるものの、毎回数百から数千件の報告が寄せられており、効果的なアウトリーチ手法であることが示されている（渡部他、日本天文学会 2008 年秋 Y05a）。これらのキャンペーンでは、普段はあまり天文に興味を持たない市民層や、関心はあるもののアプローチの仕方が分からなかった層を主なターゲットとしており、敷居をなるべく低くして実施している。しかし、(1)全国各地の公開天文台やプラネタリウム等の活動と十分、連動しきれていない、(2)マンパワーや資金が国立天文台のみでは十分ではなく、マンネリ化しつつある等の課題を近年抱えるようになった。そこで 2012 年度より、一部のキャンペーンについては、日本天文協議会の下に実行委員会を組織し、天文教育普及研究会、日本プラネタリウム協議会(JPA)、日本公開天文台協会(JAPOS)など加盟団体のほか、関連企業や団体と協力して実施していくことにした。具体的には「北極星を見つけよう！」(2012 年 9～11 月に実施)、「パンスタース彗星を見つけよう」(2013 年 3～4 月に実施)の各キャンペーンを行なった。この経験に基づき「アイソン彗星を見つけよう」キャンペーンを 2013 年 11 月 1 日～2014 年 1 月 20 日に実施する。

#### 2. 北極星を見つけよう！

「北極星を見つけよう」キャンペーンは、昨年度の天文教育研究会でも発表したように[1]、映画「天地明察」の公開と連動して、松竹映画社他が参加する「天地明察」製作委員会と、(株)ビクセン、(株)アストロアーツ、合同会社科学成果普及機構が日本天文協議会の「北極星を見つけよう」実行委員会と協力して実施された。実施期間は 2012 年 9 月 15 日～11 月 30 日の約 2 か月半である。キャンペーンのウェブページには、北極星の見つけ方、観察方法、高度の測り方という主要コンテンツの他、周極星の動きと時刻や季節変化、暦学の基礎、日本の天文学史などの情報を載せ、キャンペーン参加者はウェブの情報を参考に北極星を観察し、ウェブのフォームに○北極星が見えたか見えなかったか、○北極星の

高度は何度か、○観察地の位置情報、○コメントを投稿できるようにした。以上を入力すると、滝田洋二郎監督のサイン入りの「北極出地 2012 隊員任命状」PDF をダウンロードできる。また、参加者には抽選で天地明察クリアフォルダーや望遠鏡などの景品を提供した (<http://hokkyoku-sei.net/>)。

急ごしらえのキャンペーンであったため、広報が不十分ではあったが、海外からの参加を含め数百を超える参加があり、このようなイベントの可能性を示唆するキャンペーンとなった。松竹映画の宣伝部の皆さまをはじめ関係各位にお礼を述べたいと思う。



図1 「北極星を見つけよう！」キャンペーン <http://hokkyoku-sei.net/> の表示例

### 3. パンスタース彗星を見つけよう

「パンスタース彗星を見つけよう」キャンペーンは、(株)アストローツ、(株)ビクセン、天文学普及プロジェクト「天プラ」、合同会社科学成果普及機構、合同会社 スターライトスタジオからの協力を受けて、日本天文協議会「パンスタース彗星を見つけよう」実行委員会が実施した。実施期間は 2013 年 3 月 1 日～4 月 30 日である。普段、夜空を見上げることがない市民層や児童・生徒たちに、実際の夜空でパンスタース彗星を見つけてもらい、そのようすを観察したり、写真に写して投稿していただくことで、天文学への興味・関心を広げてもらうことと、いつでもどこで彗星がよく見えるかという観察のための情報を共有することの 2 点を主な目的とした。このため、簡単なクイズに答えると組み立て式パンスタース彗星軌道模型 (PDF) がダウンロード出来るなどの工夫をした。予算が潤沢ではなかったため、これ以外のプレゼントやポスター・チラシの配布はせずに、ポスター・チラシも PDF 版をウェブに置くに留めた。日本天文協議会下の各施設や団体、個人でパンスタース彗星観察会などを実施するなど、多くの関連イベントが実施されるよう広く呼びかけるとともに、(株)アストローツ社のウェブコンテンツ「パオナビ」とも連動するようにウェブコンテンツを整備した。

2 か月間に合計 2,042 件の報告が寄せられ、879 枚の写真投稿があった。特にパンスタース彗星の近日点通過前後には多くのアクセスが見られ、投稿結果より国内では 3 月 9 日から彗星を見ることが出来たことが分かる。

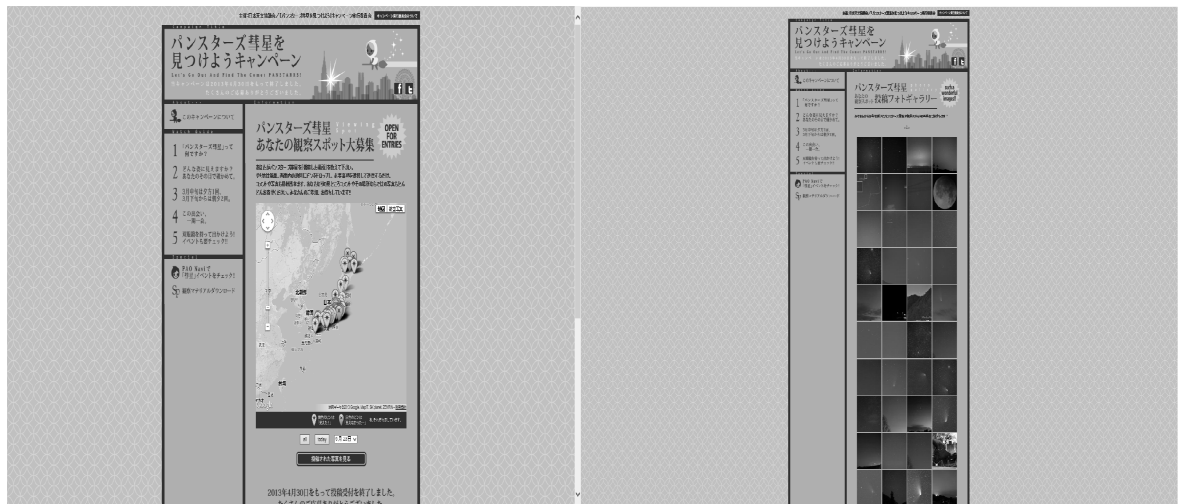


図2 「パンスタース彗星を見つけよう」 <http://pan.astro-campaign.jp> の表示例

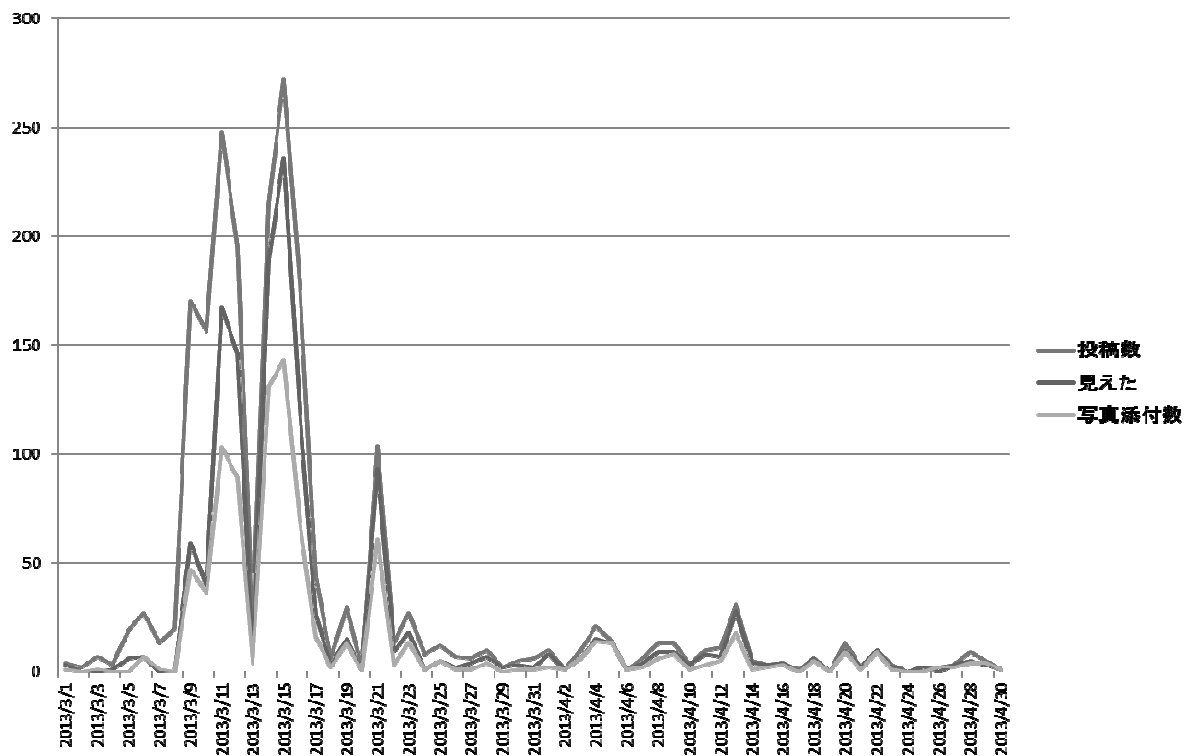


図3 投稿数、見えた人の数、写真のUP数の推移

パンスタース彗星は3月10日に近日点を通過し、1等級まで増光した。それ以降、北半球においては夕方の西～北西の低空で尾を引く姿が確認された。しかし、国内ではあいにく春霞の西の低空であったため、多くの人びとが肉眼で見つけられるような状況ではなかった。このため、図3に示したように、投稿数が徐々に減少し、一週間後にはほぼ彗星が見えた人のみの投稿となり、後半はほぼ写真を撮影した人がアップするのみにってしまった。このような数週間以上の長期にわたるキャンペーンを実施する場合には、途中でウェブ情報を更新したり、臨機応変にSNSを併用するなどの工夫が必要と考えられる。

#### 4. アイソン彗星を見つけよう

「アイソン彗星を見つけよう」キャンペーンのウェブページ URL は、<http://ison.astro-campaign.jp/> である。今回は、一般社団法人日本望遠鏡工業会と(株)アストロアーツほかの支援の下、ポスター、チラシ、ステッカーを広く配布することが出来た。「アイソン彗星を見つけよう」キャンペーンの詳細については、「天文教育」2013年9月号(Vol.25 No.5) [2]に詳しく掲載されているのでそちらをご覧ください。



図4 アイソン彗星を見つけようキャンペーンのポスターとステッカー

#### 参考文献

- [1] 第25回天文教育研究会集録, 2012, 「温故知新」, 天文教育普及研究会
- [2] 縣秀彦ほか実行委員会, 2013, 「アイソン彗星を見つけよう」, 天文教育 2013年9月号